

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャレンジまなびや つどい		
○保護者評価実施期間	R7年 3月 1日 ~ R7年 3月 15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	R7年 3月 1日 ~ R7年 3月 15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 22日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・管理者、児童発達管理責任者、指導員は元学校教諭、保育士でそれぞれの特別支援に対する知識や経験を生かしたコミュニケーションを個人・集団で連携している。	・スタッフでパソコン教室、実験教室、おやつ作り教室等を行い子どもたちの生活体験の中でコミュニケーション能力を高める。	・低学年の子どもたちが興味関心を示し、1年を通して取り組めるパソコンの活動内容を充実させたり、運動機能を高められたりできるような取り組みを深める。
2	・適切な支援の提供には概ね発達年齢に応じた生活能力を向上させ、社会とのコミュニケーションを十分にとれる総合的なプログラムで個々の子どもの実態に合わせている。	・教材教具作りを学年、個人の特性に応じて作成する。また、学校や市福祉との連携(ケース会議)を行う。	・更に個人の力を高めるよう個人の特性に応じたプログラムを提供する。
3	・地域の人材、社会資源を活用し、利用者の生活体験を豊かにできる。	・地域の講師によるバルーンアート、パン作り教室、イチゴ狩り、米・野菜作り、ふれあい食堂、天理大学とのホースセラピー、山の辺の道環境保護団体との共同作業を行う。	・それぞれの地域社会資源の活用を深め、大学との運動機能、向上プログラムを考える。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・アセスメントについて等、児童発達管理責任者、指導員、保育士の情報共有が不十分である。	・日々の業務が多忙なため一斉ミーティングの時間がとりにくい。	・全体のミーティングやスモールサイズのミーティングをとる時間を工夫している。 ・業務分担を見直す。
2	・職員研修が少ない。	・年度初めの年間計画の位置付けが不十分である。	・年度初めに必要な研修内容を探り、定期的に研修を行う。 ・担当者を増やす。
3	・モニタリング以外での保護者との面談の機会が少ない。	・就労されている保護者が多いので面談希望者のみになってしまう。	・面談ウイークのように全体に面談できる時ず期を伝えて希望者を増やす。